

◆◆「新しい川崎」メール版◆◆

-2024年1月16日・第107号-

<目次>

●「武蔵小杉をどんな街にしたいですか」～市民アンケート中間報告～

■2024年元旦、福田市長は川崎市民に何を語り、何を語らなかったか。

▲お知らせコーナー

☆1/20 講演会「軍拡から〈新しい戦前〉が始まっている」

☆1/20 中原区PTA 協議会「まなP-PTA まなびフェスタ」

☆1/21 ゆめシネマ「ガザ 素顔の日常」

☆1/27 講演会～気候危機と平和の危機「海の中から地球が見える」

★編集後記

●武蔵小杉をどんな街にしたいですか

～市民アンケート中間報告～

2023年8月に、三井不動産が武蔵小杉北口近くのホテルエルシー跡に超高層マンション計画を発表したことに対し、「小杉・丸子まちづくりの会」は「武蔵小杉北口駅前をどのような街にしたいですか？」というアンケート活動を進めています。

住民が、自力で5千戸に、返信封筒をつけて配布したところ、毎日10通、20通と回答が戻り、11月中旬から始めて2カ月で242件の回答がありました。会では、1月8日時点で、北口アンケートの中間集計をまとめて発表をしました。

行政が民間ディベロッパーと一方的に提案する大規模再開発の「街づくり」に対し、住民が反対することは当然ですが、今回の小杉・丸子まちづくりの会の運動は、住民の側から「どんな街にしたいか」を調査し、行政に提案するという意欲的な取り組みです。

今号では、中間報告の一部を紹介します。

(中間報告の詳細は、事務局の橋本稔さんに連絡してください。電話 090-5401-0633)

(1) 武蔵小杉駅周辺の環境についての15項目の選択肢の集計から、多い順に5位まで紹介します。

①交通の便がよい

- ②ビル風が強い
- ③買い物に便利
- ④駅の混雑
- ⑤公園が少ない

(2)武蔵小杉駅北口開発に望むことの自由記述欄には、208件の自由意見が寄せられました。主な意見を多い順に4項目紹介します。

- ①超高層マンションはいらない
- ②南武線と駅の混雑を改良してほしい
- ③公園、緑、広場が少ない、造ってほしい
- ④ビル風が強い、風対策を。

(3)住民視線からの自由意見は、とても貴重です。ほんの一部を紹介します。

・38年前に引っ越してきた時、新丸子・小杉共にホッコリする様な町でしたが、高層マンションによりわが家のリビングは暗くなりました。最悪な事にこの先、50階のマンションが建つ予定(家の目の前に)残念な町になりました。(小杉町在住)

・私は一時外に出て老人になって戻ってきた。小さなマンションもごみごみと建てられ、高層マンションも目の前に多くあり、日医大跡地にも建てられる。もう空地もなくなり低層マンションに住むのもいやだが仕方がない。

何しろ開発は絶対反対。

人口が増えるのも反対。

公園が少な過ぎ、住む環境が悪い。

寝るだけの人は「いいが、住む事を楽しむ者にはとても住みづらい。

昔を知る者にとってすごく環境が悪い。(小杉町在住)

・いつの間にか気づいたら高層ビルが乱立し、住宅の日当りは高層マンションによって、最悪な環境となってしまいました。

もうこれ以上の高層化はいりません。

・旧日医大病院跡地の高層マンション建設に加え、エルシー跡地まで！

ほしいのは緑の空間と住居です。子どもたちがゆったり過ごせる空間です。

保育園はあっても園庭がなく遊び場に苦慮している。人があふれ、息が詰まる武蔵小杉は何の魅力もない街になりつつあるのです。

2019年の洪水被害の教訓を心に留め、豊かな街づくりに高層マンションは是か非か、原点に立ち返って再考を切に願います。

(小杉御殿町在住)

■2024年元旦、福田市長は川崎市民に何を語り、何を語らなかったか。

福田市長は、2024年で初当選した2013年から10年目を迎えます。

福田市長は、川崎タウンニュースの元旦号インタビューで、市民向けに、この10年の成果と今後の課題を、以下のように語っています。

[\(タウンニュース記事 WEB 版\)](#)

「看板政策だった中学校給食の導入は喜びの声を多くいただきましたし、待機児童対策も3年連続でゼロを達成できました。小児医療費の助成も段階的に増やしてきました。」

福田市長が語った中身と、市長が語らなかった市政の課題について、#チェンジ川崎をめざす視点で検証します。

<中学校給食の導入>

まず、中学校給食の導入は、成果として賛同します。「川崎の中学校でも完全給食を！」の要求は、20年余りの市民の大運動により、2013年市長選での3候補全員が「実施」を公約することになりました。

初当選を果たした福田氏にとっては、市民の強い願いを裏切ることはできなかったのです。

さらに、全校でのセンター給食方式を主張した福田氏も、自校給食を求める市民の声に押され、4校での自校給食を認めました。自校調理とセンター方式が共存し、センター給食の劣化を監視する、これが川崎の中学校給食スタイルとなりました。

一方、学校給食の大きな関心事なのに、福田市長が語らなかったことがあります。

<学校給食無料化>

義務教育の無償化という憲法原則のもと、今や全国で500に迫る数の自治体が無料化を実施しているのに、川崎市は国がやるべきだとして拒否を続けています。

給食無料化は、川崎市政の大きな争点であり、沈黙は許されません。

< 保育園待機児童ゼロ達成 >

2つ目の、3年連続保育園待機児童ゼロでは、言葉と数字のごまかしを指摘したい。

2023年度の場合、「保育園に申請しても入れなかった保留児童 1523 人」から、「求職活動断念 23 人」「特定の保育園希望 274 人」「育休延長 918 人」の合計 1215 人を除外した 308 人について、市の保育施策で対応し「待機児童」が差引ゼロになったと4月に報告されています。

しかし、1月の一次調整で入所できず、以後に申請辞退や市外転出した場合は保留児童 1523 人からも除外されています。

→令和5年4月 保育所等利用申請・待機状況

つまり、誰もが保育園に入れるようになったのではなく、「隠れ待機児童」が大量に残されているのです。

福田市政が、保育園の増設に努力したことは評価すべきですが、増設の多くがビルの一画など園庭のない保育環境や、保育士の労働条件の劣悪さの改善を、緊急の課題として明記すべきなのです。

< 中学卒業までの小児医療費助成拡充 >

3つ目の、小児医療費の助成の段階的拡大については、成果ではなく、立ち遅れです。

福田市政は、確かに10年かけて中学卒業まで小児医療費の拡充と所得制限の撤廃を行いました。

しかし、この10年で、多くの自治体は、18歳までの拡充と一部負担金の撤廃を進めています。

県内33自治体で、助成制度が中卒までの自治体は6市町だけ、その中で一部負担金があるのは川崎市だけ！それでも、去年の市議会答弁で、福田市長は18歳までの拡充と一部負担金の撤廃を拒否しました。

※福田市長が語らなかったことにこそ、川崎市民の暮らし改善の焦点が見えてくるのではないのでしょうか。

▲お知らせコーナー

☆講演会「軍拡から<新しい戦前>が始まっている」

講師:山田朗さん(明治大学教授)

1/20(土)18時15分～

多摩市民館:大会議室

資料代:500円

主催:治安維持法国家賠償要求同盟

共催:治安維持法同盟川崎支部

連絡先:044-931-3336・神奈川土建川崎西支部

[詳しくはこちら](#)

☆中原区PTA協議会主催の交流イベント「まなPーPTA まなびフェスタ」

★「夢みる小学校」上映会★ & ★西郷孝彦先生 講演会★

1/20(土)9時半

中原市民館 (武蔵小杉駅徒歩3分)

どなたでも入場無料でご参加になれます。

詳細:お申込みはこちらから ↓ (<https://forms.gle/j2taM8nsZaYY2QwBA>)

申込み期限は設けておりません。

但し申込みが会場の定員に達した時点で締め切りになります。

主催 中原区PTA協議会主催「まなP」企画

☆ゆめシネマ「ガザ 素顔の日常」

1/21(日)①9時 ②12時 ③15時 ④18時

かわさきゆめホール

一般:1,000円 障がい者:500円 学生以下:200円

044-433-3003 ゆめホール

cinama@kawasakiyume.com

[詳しくはこちら](#)

[紹介動画](#)

☆講演会～気候危機と平和の危機

「海の中から地球が見える」

講師:武本匡弘さん(プロダイバー・環境活動家)

1/27(土)14時～

幸市民館第1会議室

会場費・資料代:カンパにて

主催:幸区革新懇、1.27 後援会実行委員会

お問合せ:080-5653-6196・坂内

[詳しくはこちら](#)

★編集後記

義母の法事で名古屋に行った帰りに[リニア鉄道館](#)に立ち寄りました。

SLからリニアモーターカーまで39両の実物車両が展示されていて圧巻。

当然のことながら、鉄道の歴史、技術の進歩、技術者たちの涙ぐましい努力が丁寧に展示されていて、特にリニアモーターカーの構造やら、体験施設やら、映像展示やらが大きなスペースをとっています。

1日の地震で、志賀町では震度7を観測したものの、志賀原発の敷地では震度5強でした。

しかしこの揺れで、外部電源から電力を受ける変圧器が1、2号機とも破損。約2万3400リットルもの油が漏れ、外部電源の一部が途絶えたままで、全面復旧には半年超かかる見通しです。

「安全神話」が妄想であったことが改めて証明されました。

リニアモーターカーについても「安全神話」が意図的に形成されています。

時速500Kmで走行しているときに地震に遭遇したらどうなるか。

約1.5mの高さの頑強な側壁に推進コイルが埋め込まれていて、車両の超伝導磁石との引く力と押す力のバランスで車体は浮き上がり適正な隙間を維持しながら前進します。

だから、「リニアモーターカーは脱線することなく地震に強い」と言います。

しかし、[地震が起きたらどうなるか](#)。走行中に電源が遮断されたらどうなるか。

なんとも自信満々の地震対策ですが、よく読めば地震による被害をととても小さく考えていることがわかります。

「ひとつの変電所が壊れても隣の変電所から供給するから大丈夫。」と言いますが、そもそも発電所が壊れることは想定外。

しかも側壁が壊れて激突することは想定外。

避難するにしても、地上に通じる出口は駅まで行くしかなく、止まった場所によっては暗い地下の避難路を30km以上を徒歩で移動せねばなりません。

「訓練するから大丈夫」と言っていますが、……？

結局、「最悪の事態」は考えないことで成り立っている「安全神話」なのです。

リニア計画は中止しかない。(Y)

☆☆チェンジかわさき！☆☆

川崎民主市政をつくる会

〒211-0011 中原区下沼部 1880

お問い合わせ

mailmag@newkawasaki.jp

公式ホームページ

<https://newkawasaki.jp>

☆☆チェンジかわさき！☆☆

配信を希望されない方は以下をクリックしてください。

自動的に登録を解除します。

https://my922p.com/User/cancel_mail/fMwwpqj4/LakZt6KvCQ7n?mail=talosxxx%40gmail.com

誤って登録解除した場合、以下までご連絡ください。

mailmag@newkawasaki.jp